

臨床研究に関する情報

当院では以下の臨床研究を実施しております。この研究は患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年厚生労働省・文部科学省・経済産業省 告知第1号）の規定により研究内容の情報公開をすることが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら以下のお問い合わせ先へご照会ください。

研究課題名；

治療成績向上のためのパーキンソン病振戦に対するoptimal targetの検討

主任研究者名・所属

仁村太郎（脳神経外科）

研究目的

パーキンソン病振戦は全体の70%に見られるとの報告がある。症状改善のためL-DOPA製剤を投与するのが第一選択だが30-50%の患者に満足な症状改善が得られていないとの報告もある。このような薬剤抵抗性振戦の場合、外科的治療の適応となる。近年、世界的にパーキンソン病振戦に対する集束超音波療法が行われている。これまでパーキンソン病振戦に対するtargetは視床腹側中間核（Vim）である。しかしVimを凝固ないし電気刺激しても症状が改善しない、ないしは再発することを経験する。この理由としてはVim核はMRIで描出できないことやVimの位置に個人差があることが原因とされてきた。最近、パーキンソン病振戦の機序としてswitch-dimmer hypothesisが提唱され注目を集めている。この理論では振戦が発生するには淡蒼球内節から視床Vo核を経由し運動野へ行く回路と小脳歯状核-Vim-運動野への回路が関与している。この仮説に基けばこれまでの治療ターゲットはVim核なので淡蒼球内節-視床Vo核-運動野への回路を治療していないため再発している可能性が考えられる。本研究ではパーキンソン病振戦の再発に淡蒼球内節-視床Vo核-運動野への回路がどれくらい関与しているかを後方視的に解析し、この理論を検証することを目的とする。

研究方法

対象となる患者さん

対象は当院で2020年8月から2024年12月までに集束超音波療法で振戦治療を行ったパーキンソン病患者

利用するカルテ情報

カルテに記載されている患者情報、MRIを含めた画像情報、手術で使用したtractography情報を解析対象として使用

研究実施期間

2025/12/1-2026/12/31まで

この研究について研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項を除いたうえでお知らせすることができます。研究に利用する患者さんの情報に関しては名前・住所など患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また研究結果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

連絡先；

亘理郡山元町高瀬字合戦原100 電話番号:0223-37-1131

担当者（所属）；

仁村太郎（脳神経外科）